



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行

市議団
ニュース

ご相談は
お気軽に
市議会議員
福田 明
43-0468
市議会議員
鈴木やす子
42-2462

高校卒業生の雇用支援を 市長が表明

国の緊急対策を活用

1月4日、北茨城市役所の御用始めにあたって、豊田稔市長から全職員に「情勢はきびしいが、それぞれが自分の持ち場で、自分らしく働いていただきたい」



初日の出 2010

(磯原海岸)

と訓辞がありました。さらに同日、市長は、新卒の高校生の就職を支援するために、政府が緊急提案した「重点分野雇用創造事業（仮称）」に取り組み方向で県と協議を始めることを表明しました。

この事業は、雇用情勢がきびしいなか、介護、医療、農林、環境など成長分野として期待されるところの雇用機会を創出するとともに、地域ニーズに応じた人材を育成し雇用につなげることを目的です。行政が1年の契約で人件費や研修費を支出し、民間企業等に委託する形で施行されます。

特に未就職卒業者の雇用に配慮することと、12月市議会での日本共産党の福田明議員の「高校卒業生に就職支援を」の質問に添えたものとなっています。詳細は、国会・県をとおして決定されていきます。

太平洋岸でも大きな被害

大津漁協で実態を聞く



1月7日、共産党市議団は大津漁協を訪問し、昨年来の「エチゼンクラゲ」の被害について聞きました。

「エチゼンクラゲの大量発生は、平成17年の時もひどかったが、今回はそれを上回るもの。日本海沿岸で発生したものが、津軽海峡を超えて太平洋岸にやってきて、大津港沿岸でも昨年の10月上旬から12月上旬までは大量に発生して、どうにもならない事態だった。しかし現在は水温が10〜15度以下になつたためか、クラゲの被害は聞いていない」とのことでした。

被害が最も大きかったのが、シラスなどを主に漁獲する小型船で「網が破れたり、網にクラゲが大量に入って仕事にならなかつた」としています。現在、小型船は1月1日から2月10日までは県条例で禁漁期間となっており出港していませんが、「2月1日から操業できるように県に働きかけているところ」と話しています。



網にかかったクラゲ (大津漁協の記録写真から)



磯原のサザエさん